

急落していたトルコリラが大幅反発

ポイント① トルコリラが急反発

トルコのエルドアン大統領は12月20日、トルコリラ安による国民の負担を軽減するために、トルコリラ建ての預金を保護する新たな政策を導入すると発表しました。政策の詳細が待たれますが、米ドルなど主要通貨に対するトルコリラの下落率がトルコリラの預金金利を上回る場合、その差分を損失として政府が補償するものになるようです。この発表を受け、20日のトルコリラは対米ドルで17日の引け値から23%程度上昇しました。

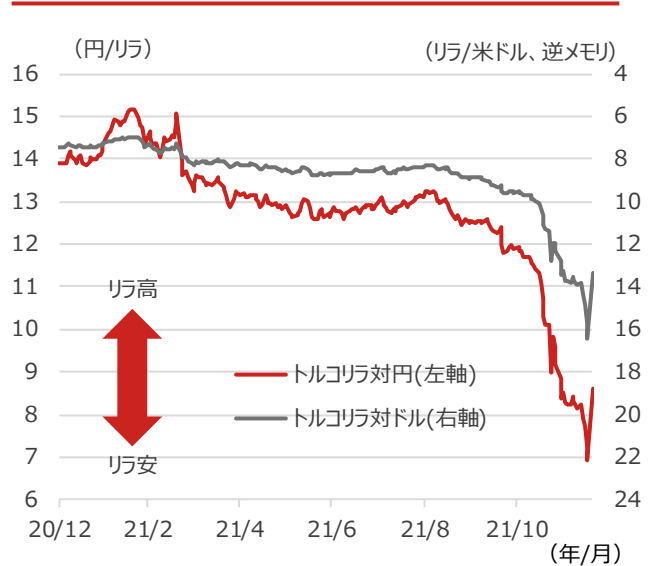
ポイント② インフレ懸念は継続

外貨に対する為替損失分を政府が補償すると約束することで、目先トルコの居住者が外貨を購入する必要性が薄れ、短期的には通貨下落に歯止めがかかる可能性があります。しかし、こうした損失補償は野放図な財政支出の側面があり、新興国の中でも比較的健全な水準にあるトルコの財政状況を悪化させる恐れがある上、インフレをさらに助長しかねません。

ポイント③ 抜本的な対策ではない

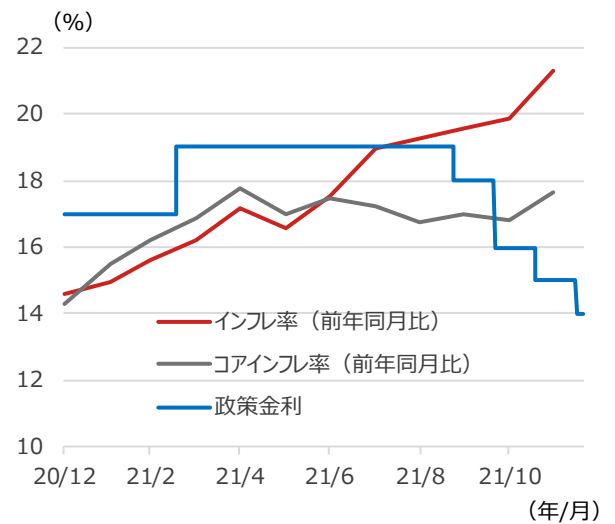
トルコでは経済を過度に刺激し成長を追求する一方、十分な金融引き締めを実施してこなかったことでインフレが加速しています。11月の消費者物価指数は前年同月比+21.3%に達する一方、政策金利は9月以降に5.0%引き下げられて14.0%となっています。実質金利はマイナス圏に沈み、トルコリラは年初来で一時50%程度下落しました（対円）。トルコ経済が今必要としているのは金融引き締めであり、今回の政策は抜本的な対策とは思えず、当面はトルコリラの動きに注意が必要です。

トルコリラの値動き



期間：2020年12月31日～2021年12月20日、日次
(出所) ブルームバーグデータより野村アセットマネジメント作成

トルコのインフレ率と政策金利



期間 (インフレ率)：2020年12月～2021年11月、月次
期間 (政策金利)：2020年12月31日～2021年12月20日、日次
インフレ率：消費者物価指数、コアインフレ率はエネルギーと食品を除く
政策金利：1週間物レポレート
(出所) ブルームバーグデータより野村アセットマネジメント作成

重要イベント
1月3日 トルコ・消費者物価指数 (12月)
1月20日 トルコ・金融政策発表